**准校長　中村　貴亮**

**令和７年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 生徒を自立した社会人として送り出すために、社会人としての必要な力を養うとともに、社会に主体的に参画できる人材の育成をめざす。  １．【学ぶ】：「ゆっくりしっかり学べる教育」を実践し、基礎学力の向上を図る。  ２．【つながる】：個々の生徒に寄り添い、自己肯定感や豊かな人間性を育むとともに、学校が居場所となるように努める。  ３．【挑戦する】：夢を実現させるためのキャリア教育を推進する。 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １　確かな学力の育成  　（１）社会で必要な基礎的な知識・技能の定着を図り、授業での学びを通して社会人としての常識を身につける  　　　　ア　生徒の学力に応じた教育内容を設定し、学ぼうとする意欲を高め、基礎学力を向上させる。  　　　　イ　主体的・対話的な深い学びのある授業へと授業改善を推進し、授業力の向上を図る。  　　　　ウ　観点別評価を充実させるとともに、１人１台端末を活用した個別最適な学びのある授業方法を研究し、実践に取り組む。  　（２）思考力・判断力・表現力を育成することにより、集団において適切な意見を述べ、行動できる力の育成を図る。  　　　　ア　総探PTを中心に充実した「総合的な探究の時間」の実施により、課題対応能力や人間関係形成能力の育成を図る。  （生徒向け学校教育自己診断「授業で発表したりすることがある」の項目の肯定率を令和９年度85％以上にする）  　※（R４：60.0％　R５：78.3％　R６：86.0％）  ２　豊かな人間性と「社会の一員」としての自覚の醸成  　（１）自己および他者への理解と自己有用感の育成  　　　　ア　特別活動や学校行事の充実を通して、自己有用感を育成し、コミュニケーション力を向上させ、集団の中で協力しながら活動できる力を育成する。  　　　　イ　生徒の自主的な活動である部活動や生徒会活動の活性化に努める。  　　　　（教員向け学校教育診断「生徒会活動支援」の項目の肯定率を令和９年度90％以上にする）※（R４：83.3％　R５：88.2％　R６：88.2％）  　（２）規範意識の醸成と自己管理能力の育成  　　　　ア　規律ある学校生活を通して、基本的な生活習慣の確立をめざす。  　（３）キャリアプランニング能力の育成  　　　　ア　１年次より計画的・系統的にキャリア教育を行うことで、自己実現の意欲を喚起し、進学・就職を希望する生徒の進路決定率100％をめざす。  　　　　イ　就業体験や応募前職場見学等の様々な体験活動を通して、生徒一人ひとりの職業観・勤労観の形成を図る。  　　　　（生徒向け学校教育自己診断「将来の進路を考え、一般常識を学ぶ機会がある」の項目の肯定率を令和９年度90％以上にする）  ※（R４：84.4％　R５：82.9％　R６：94.3％）  ３　生徒支援と安全安心な学校づくり  　（１）生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくり  　　　　ア　人権教育を推進し、様々な人権課題の解決に取り組む。  　　　　イ　SCやSSWの活用を推進し教育相談体制を充実させ、生徒の「居場所づくり」を進めるとともに、合理的配慮にもとづき、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす。  　　　　ウ　支援コーディネーターを中心に、担任、養護教諭、SCやSSWと連携し、生徒の特性に応じた効果的な支援を行う。  　（２）安全安心な学校  　　　　ア　学校全体として健康安全教育や交通安全教育を推進し、生徒および教職員の健康増進と安全確保を推進する。  　　　　イ　定時制の現状に即した防災教育を実践し、災害に備えた危機管理体制を確立する。  　（３）教育活動の広報  　　　　ア　家庭や地域の中学校等との連携を推進し、情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりに努める。  　　　　（保護者向け学校教育診断「学校や進路指導についての情報提供」の項目の肯定率を令和９年度90％以上を維持する）  ※（R４：93.8％　R５：91.3％　R６：81.8％）  ４　学校運営体制の改善と人材育成  　（１）意欲的な学校運営  　　　　ア　各学年・分掌・委員会が計画的に業務を運営するとともに、各組織間の連携を密にし校務の効率化を図る。  　　　　（教員向け学校教育診断「各分掌や各学年間の連携」の項目の肯定率を令和９年度90％以上にする）※（R４：55.6％　R５：82.4％　R６：82.4％）  　　　　イ　各種ハラスメントの防止に対する意識の啓発を行う。  　（２）互いの強みを活かし、支え合う教員集団づくり  　　　　ア　現場のニーズに即した校内研修を計画的に行うことにより、教員力の向上を図る。  　　　　（教員向け学校教育診断「校内研修の計画的な実施」の項目の肯定率を令和９年度80％以上にする）※（R４：66.7％　R５：70.6％　R６：64.7％）  　（３）働き方改革  　　　　ア　校内ネットワークを含めたICT活用を推進し、業務効率化を行う。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［令和　　　年　　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R６年度値] | 自己評価 |
| １確かな学力の育成 | (１) 基礎的な知識・技能の定着を図り、社会人としての常識を身につける  ア　基礎学力の向上    イ　授業力の向上  ウ　観点別評価の充実と１人１台端末の活用  (２) 集団において意見を述べ、行動できるようにする  ア　課題対応能力や  　人間関係形成能力  　の育成 | (１)  ア・年度当初に本校独自の「学力診断テスト」を実  　　施することで生徒の学力を把握し、ゼロ時限など  　　の活用により基礎学力の底上げを図る。  　・少人数展開・TTなどの授業を継続し、生徒の個々  　　の状況に応じた学習を支援する。    イ・生徒が興味・関心を持ち、積極的に対話や思考ができる授業づくりを推進し「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。  　・テーマを絞った公開研究授業や校内研修を実施する。  　・他校の研修や公開授業へ積極的に参加する。  ウ・GIGAスクール推進委員会を中心に、「１人１台端末」の活用について研究・実践を進める。  ・各教科の「観点別評価」の実施状況について、課題の解決を図る。    (２)  ア・総合的な探究の時間において、４年間(３年間)を見据えた計画を立て、生徒が課題を発見し解決する能力やコミュニケーション能力を育む。  ・全校での発表会を継続する。  　・授業中の発表やグループ学習の機会を設け、意見交換の重要性や他者と協同する態度を育成する。 | (１)  ア・授業アンケート  　　「知識・技能が身についた」肯定率85％以上維持  　　　　　　　　　[88.2％]    イ・授業アンケート「生徒理解」肯定率90％以上　　　　　　　　　[89.3％]  　・生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすい」肯定率90％以上維持 [96.4％]  　・授業公開期間２回［２回］  　・他校の研修へ参加７人以上[７人]  ウ・生徒学校教育自己診断  　　「１人１台端末の効果的活用」肯定率90％以上維持[93.3%]  　・観点別評価を検証する研修１回以上  (２)  ア・生徒学校教育自己診断「授業で発表する」肯定率80％以上維持 [86.0％] |  |
| ２ 豊かな人間性と「社会の一員」としての自覚の醸成 | (１) 自己および他者  　への理解と自己有  　用感の育成  ア　特別活動、学校行事の充実  イ　生徒会活動、部活動などの活性化と生徒が主体となる活動の支援  (２) 規範意識の醸成  　と自己管理能力の  　育成  ア　学校の教育活動  　を通しての規範意  　識の醸成と基本的な生活習慣の確立  (３) キャリアプラン  　ニング能力の育成  ア　全学年を通して　の計画的なキャリア教育による職業観・勤労観の確立  イ　就業体験などによる職業観・勤労観の形成 | (１)  ア・学校行事やLHR、総合的な探究の時間において  　　自己有用感を育む機会を積極的に作る。    イ・部活動が居場所となるよう、各集会にて部活動の紹介などを実施する。  　・生徒秋季発表大会への参加を積極的に促す。  　・HPやSNS、准校長ブログなどを利用して、生徒会や部活動への参加啓発を促す。  (２)  ア・教員が連携し、学校のすべての教育活動を通した規範意識の醸成を図る。  ・欠席・遅刻・早退・欠課（中抜け）の防止。      (３)  ア・進路HRの時間を確保し、計画的で継続した進路指導を実施する。  　・外部人材を招いた研修を通じて、進路についての意識向上をめざす。  ・ハローワークや外部機関との連携を行い、進路決定率を高める。    イ・アルバイト指導やインターンシップなどの就業体  　　験を通して、就職希望者の進路選択の機会を増や  す。 | (１)  ア・生徒学校教育自己診断「行事が工夫されている」肯定率90％以上[89.3％]  ・生徒学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」肯定率75％以上[78.8％]  イ・部活動の加入率60％以上[56.9％]  　・生徒秋季発表大会への参加10人以上を維持[14人]  (２)  ア  　・年間遅刻数（のべ人数）  　 昨年度以下　　 [765人]  (３)  ア・就職希望者・進学希望者の進路決定率100%[100％] (進路決定率とは、学校斡旋就職と進学決定者総数をその希望者の総数で除した値)  イ・定期的なアルバイト指導の実施(年間４回)（新規） 上記指導によるアルバイト就業者数(年間７人)（新規） |  |
| ３　生徒支援と安全安心な学校づくり | (１) 生徒の個に応じ  　た支援と、生徒が安  　心して通える学校づくり  ア　人権教育の推進  　（様々な人権課題へ  　の取組み）  イ　教育相談体制の  　充実と合理的配慮  ウ　支援コーディネーターを中心とした生徒支援  （２）安全安心な学校  ア　健康安全教育の推進（生徒および教職員の健康増進と安全確保）  イ　災害に備えた危機管理体制  （３）広報  ア　家庭、地域との連携推進と開かれた  　学校づくり | (１)  ア・４年間(３年間)を意識した人権HRを計画、実施  　　し系統的な人権学習につなげる。  　・教職員を対象とした校内研修等の実施により、人  　　権問題への理解を深める。  イ・SCやSSWと連携し教育相談の充実を図る。  ・SCによる支援についての研修を実施する。  　・居場所づくりを通して、教員と人間関係が構築できる取り組みを推進する。  ウ・教員やSC/SSWが連携し、最適な支援方法を検討する。  （２）  ア・本校の特色やニーズに合う健康安全教育の実践を  　　図る。  　・食物アレルギーへの対応について、校内研修等を通して教職員の意識の向上を図る。    イ・災害時の避難行動について理解できるよう、定時制の実態に即したリアルな避難訓練を実施するとともに、防災HRにより生徒の意識の向上を図る。    （３）  ア・准校長ブログ・HP・SNSを活用し日々の学校の様子等を発信する。  　・「布施定だより」や各種便りの定期的な発行により、定時制の魅力の情報発信を行う。  　・保護者への授業公開を行い、保護者が来校する機会を増やす。 | (１)  ア・生徒学校教育自己診断  　　「人権意識が高まる」  　 肯定率85％以上維持　[89.1％]  ・教職員人権研修の実施２回以上[４回]  イ・ケース会議を開催し、情報共有を行う。  ・生徒学校教育自己診断  　「先生に気軽に相談できる」肯定率85％以上維持[88.7％]    ウ・定期的なアセスメント会議の開催［３回］（新規）  （２）  ア・ほけんだよりの発行４回［４回］  ・食物アレルギー研修１回以上[１回]  　・健康安全に関するイベントへの実施や参加３件［３回］  イ・防災HRの実施２回以上[２回]    （３）  ア・学校説明~~会~~を２回実施[２回]  ・「布施定だより」の発行 年６回以上[９回]  ・保護者参観を実施　１回［１回］  ・文化祭、体育祭の来校者数60人［文化祭59人、体育祭50人］ |  |
| ４　学校運営体制の改善と人材育成 | (１) 教職員の学校運  　営への参画意識の  　醸成  ア　分掌等会議の充  　実と組織間の連携  　を図った校務の効  　率化  イ　各種ハラスメントの防止に対する意識の啓発  (２) 学び続ける教員  　集団の形成  ア　校内研修の計画  　的な実施  (３) 働き方改革に向  　けた取組み  ア　校内ネットワークを含めたICT活用の推進 | (１)  ア・運営委員を中心に日々の「報告・連絡・相談」を継続する。    イ・各種ハラスメントについて、日常的に注意喚起するとともに研修を行う。  (２)  ア　学校のニーズに合う研修の計画を行う。  (３)  ア・ICT機器やアプリを活用し、業務効率化を図る。 | (１)  ア・教職員学校教育自己診断「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」肯定率80％以上 [82.4％]    イ・教職員学校教育自己診断  　　「相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動の実施」肯定率70％以上[76.5％]  (２)  ア「定例教員研修」を10回実施する[12回]  (３)  ア・会議の実施時間を１時間以内とする。 |  |